

平成 31 年 2 月 19 日

加藤 昭宏

訪タイ報告書

1 訪問先

タイ・チェンマイ チェンダオ群

リス族の住む村、及び小・中学校

2 日時

平成 31 年 2 月 9 日（土）～12 日（火）

3 小学校での聴き取り内容

- ・幼稚園、小学校、中学校が一つの場所にある。リス族の方達は皆ここに通う。
- ・お金がある家はスクールバス、お金がない家は徒歩で通う（スクールバスは 1 ヶ月 100 バーツ、約 374 円）。村から学校までは、約 1.5Km の距離。
- ・小学校 126 人、中学校 31 人の生徒が在籍。（小 1 から順に 23,27,16,17,18,25 人）
（中 1 から順に 11,11,9 人）
- ・学校としてお金がなく【電気があまり使えない】のが大変である。窓を開けると寒い、閉めると暗い（来訪した際は空いていたが寒かった）。中学生が授業で使うパソコンも先生の私物とのこと。
- ・あまり学校に来ていない子どもも 10 人程いる（恐らく小・中合わせての人数）。中には、1 ヶ月以上休んでいる子どももいる。親の家庭状況等もあって、先生が家に訪問し話をしても、一週間程は連続で来るが、その後また来なくなることもある。なお、訪問に行くのは校長先生が主。
- ・そもそも、全般的に【勉強に対する意欲】がない子どもが多い。それに関連し、将来「何になりたいか？（何の仕事をしたいか？）」と聞いても、【畑仕事以外を知らない】からか「わからない」と答える子が多いのだという。
- ・この背景には、リス族の住むエリアから一番近いマーケットが 30 キロ程離れており、さらにはチェンマイの市街地は 120 キロ程離れている為、職業体験もできず、【本物の仕事を見たことがない】ということがある。
- ・「（例えば警察など）実際にチェンマイで働いている人をこちらに呼ぶのはどうか？」と聞いてみたが、リス族の方たちはその民族内での言葉を使っており、学校でタイ語を習うということもあり、耳で聞くだけでは中々理解は難しいとのことだった。
- ・小学校 6 年生、中学校 3 年生の時に遠足には行くが、海や、歴史の勉強？が中心とのこと（あまりわからず）。
- ・職業体験を企画したいが、学校もお金がなく、企画出来ない現状がある（各家庭からお金を出してもらおうと、特にお金がない家庭は参加できなくなってしまう）。



桜の木の下で先生、児童らと



教室の中でご挨拶させて頂く



校長先生へお土産を渡す



幼稚園の子ども達と
(幼稚園は日本人が建てたとのこと)



学校でタイ語を習う
(普段はリス族の言葉を使う)



外のトイレ

5 その他、全行程での出来事

○1日目（2月9日 土）

- ・行きの飛行機で知り合った日本人（福井義和氏、59歳、会社員）から、タイについて色々教えて頂く。同氏は、これまで50回程訪タイしている。また「NGO立上げの際は、協力するよ」とのこと。3年程したら、バンコクに移住を計画している。難民問題についても強く関心がある様子で、「ロヒンギャ問題が一番問題だ」との弁あり。
- ・ドンムアン空港内フットマッサージ店に入店。30分250バーツでマッサージを依頼。施術氏A、レジにBの2名にて対応頂く。途中、空港内アナウンスでゲート変更が流れ、B氏に確認頂く。その後、「腰、肩、首も施術するから、45分で350バーツに延長しないか」と言われ了承。会計時、B氏から「A氏へのチップは？」と言われ100バーツを追加で支払う。その後、「私には？」とB氏。空港アナウンスを確認頂いたこともあり20バーツを支払うと、別の店員が2名程きて「私にも」と。
- ・同行者オン氏、妹ケン氏、ケン氏の息子オウノウ君と合流。街内（特に、チェンマイ空港付近）は大変車が多く、運転は慣れないと難しいと感じる。ホテルに泊まるか、家に泊まるか、と言われ、家を選択（ホテルは設備が整っており温水が出るが、家はない、と）。食事をとり、ご自宅へ。道中、飼い犬が放し飼いで街中に大量におり、狂犬病等の恐れもあり恐怖を感じる。
- ・家のトイレは紙を流せず（水道管が発達していない為）、通常、横についているシャワーでお尻を流すとのこと。腹痛の為、何度かトイレを利用させて頂く。シャワーは、冷水の為諦める。



←シャワー（左）と、遠くに犬がいる↓



○2日目（2月10日 日）

- ・朝ご飯をマーケットで買うのが普通とのことで、調達し朝食。オウノウ君を祖父宅へ送り、チェンダオ群へ向かう。日中は35℃まで上がり、非常に暑い。車は、トヨタ、スズキ等日本車をよく見かける。また荷台のあるピックアップトラックがかなり普及しており、よく見かけた。
- ・途中、「ここが、家から一番近いマーケットで、病院もある」と。家からは30キロ程離れている。合計120キロ程走り、無事リス族の住む村へ到着。タイでは正月ということもあり、50人ぐらいの親族が集まり大宴会しているところに混せて頂く。オン氏は、13人兄弟（2人亡くなっており現在は11人兄弟）。
- ・正月の為か、女性らが皆食事の準備をしている。村では、犬の他豚、鶏を飼っている。生きている豚を捕まえ屠殺し、丸焼きにしている。ガスはないのか、火を焚いている。
- ・料理の半分はとても辛い。お酒（ワイン、ウィスキー、ビール）やコーラを頂く。
- ・78歳のお父さんが最近足や耳が悪くなったとのことで、健康を祈念する為に近くの川へ生きお祈りに参加。家で過ごす様子を見ていても、喋らず、じっと椅子に座り、時折血や痰を吐いている様子であった。
- ・その後、宿泊先の小屋へ移動。一休みして、夜からまた宴会があり、星空の下、15人程で肩を寄せあって飲み会。



朝のマーケット（ビニール袋に入っている）



お弁当も売っている

3人分の朝ご飯



ベッドは、厚いマットレスが主流





ご自宅に到着。かなり山の中。



豚肉の下ごしらえ

春雨。かなり辛いけど美味しい



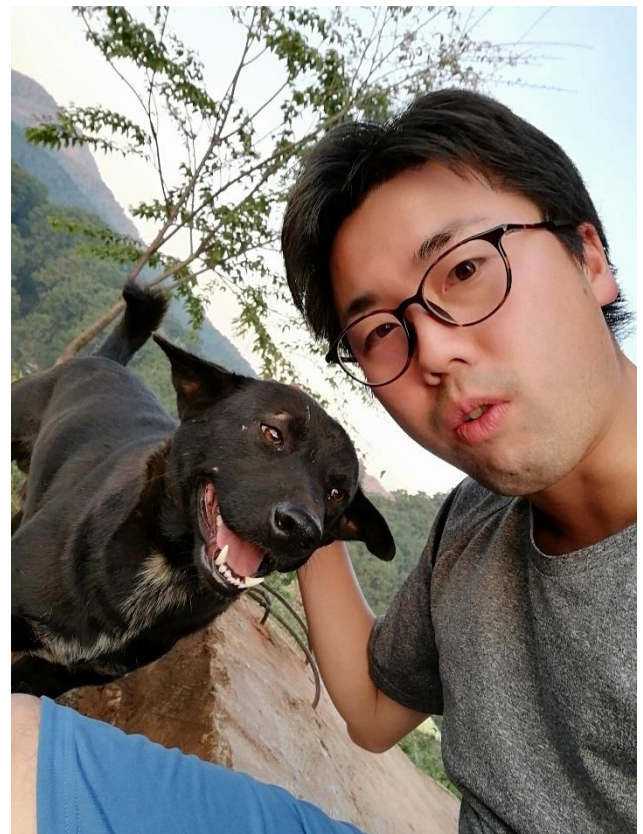
お酒を頂く



川でお祈り



家畜に触れるのは危険だったか





正月ということで豪勢な食事



宿は山頂にあり景色がとてもいい



ここで夜宴会。星空が最高に綺麗。



宿泊した所。600 バーツ。約 2,244 円。

やはりトイレとシャワーは同室。
かなり寒かったが全身を洗う。



窓からの眺め。村を一望できる。



○3日目（2月11日 月）

- ・学校へ行き話を伺う（内容は1ページ「3 小学校での聴き取り内容」を参照）
8時に学校へ行き、2時間程授業の様子や学校内を見学し、10時頃から校長先生と話を。その後、給食を一緒に食べ、集合写真を撮って解散。4時間以上滞在させて頂く。学校には、オン氏、ケン氏、オン氏の弟の3名に同行頂く。
- ・その後1時間半程時間が出来た為、村内を歩いて周る。確かに、恐らく学校に行っていないと思われる子どもを見かけた。しかし、家の中におり声はかけられず。
- ・14時半頃、チェンマイへ帰る親族らとともに空港へ向かう。帰り、3か所程寄り道を（荷物を届ける、親族宅へ行く、バスのチケットを買う、等それぞれに用事があった様子）し、その後18時頃から1時間弱チェンマイ付近で観光後、空港にて一人降りして頂き解散。
- ・お礼として①オン氏へ2万円、②ケン氏へ2,000バーツ（約7,480円）、③オン氏の弟へ1,000バーツ（約3,740円）を、日本で買った富士山の絵が描かれた袋に入れお渡しした。最初は皆断られたが、最後は受取って頂いた。（オン氏へは、1万円はオン氏自身へのお礼として、残りの1万円は「(その場にいる)皆で飲み食いし、余った分を木島氏のお土産代の足しにしてほしい」と伝えたとこ、受け取って頂いた。）

今回、同行頂いた皆さん。加藤の右がオン氏の弟、その右が妹ケン氏





朝礼（上）後、子ども達はまず
歯を磨く（下）



幼稚園の子どもたち。青い服も制服の一部だが、お金のない家庭は買わなくてもいいと
いうことになっているとのこと。



○4日目（2月12日 火）以降

- ・帰国。午前9時40分セントレア着。
- ・Facebookで校長先生、他先生2名、また飛行機で知り合った福井氏と友達となり、メッセージでお礼をお伝えする。
- ・13日から仕事へ行くが、夜から悪寒、倦怠感、微熱（37℃台）あり。夜中、腹痛に襲われトイレへ5回程行く。下痢。14日、38.4℃まで上がり病院へ。インフルエンザは陰性、胃腸炎との診断で点滴後、抗生物質、胃薬等処方される。同日午後、さらに激しい腹痛に襲われ、意識が遠のく。人生最大の腹痛を経験する。14、15日と仕事を休むが、回復し16日から仕事へ復帰。

6 今後について

- ・職場体験ツアーの企画等、プロジェクト内容について検討
- ・プロジェクトに合わせNGOを立上げ
合わせて、名刺やHPを作成したい。
- ・ブログを作成し、定期的に情報発信
- ・次回、7月頃に再度訪問したい。チェンマイで職業体験を受け入れてくれるところを探すことも必要。
またリス族の生活（どこで農作業をし、何を作っているか、特産品等はあるか、村の人口は何人か、族長・村長はいるか、自治会はあるか、等）についてより詳しく知りたい。
- ・これらの動きと長久手市とを、どう結びつけるか検討したい。

以上